



平和資料館 草の家 だより

No.164

2024年9月27日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail grh911@dream.jp HP <http://www.maroon.dti.ne.jp/kusanoie/>
※2月よりアドレスが変わりました

台湾出兵(牡丹社事件)と「日台和解」

「平和資料館 草の家」は、7月3日～10日の期間、「第46回 戦争と平和を考える資料展」を開催しました。その中で、今年がちょうど150年となる「台湾出兵」についての事例も展示したので、それを紹介します。

1874(明治7)年5月、日本軍は3,600人の兵力で台湾に攻め込みました。近代日本で初の海外派兵と位置付けられています。この出兵のきっかけとなったのは、3年前に起きた「琉球民遭難殺害事件」です。宮古島の島民が琉球王府に年貢を納めた帰りに暴風雨に遭って台湾に漂着し、現地のパイワン族に殺害されるという惨劇でした。遭難殺害事件と出兵の現場が台湾南部の「牡丹社」(現在の屏東県<へいとうけん>牡丹郷)であったため、二つを一体にして「牡丹社事件」と呼ばれています。



上里清美さん提供

この事件は本来、琉球王府が対処すべきでしたが、明治政府はこれを政治利用しました。「原住民に対する懲罰、自国民の保護、航行の安全」を大義名分として攻撃したのです。原住民は激しく抵抗しましたが、20日間の戦闘で日本軍が制圧しました。この事件を契機に明治政府は琉球を自国の領土だと内外に宣言(琉球処分、1879年)し、後の台湾領有(1895年)を確実なものとしたのです。

2005年、当時の牡丹郷の郷長は、パイワン族の末裔とともに宮古島を訪ね、遭難者殺害を謝罪しました。日本側はこれを受け入れ、未来志向の友好を誓いました。和解の記念として牡丹郷側はパイワン族と宮古島民がそれぞれ伝統衣装をまとい、肩を組んで酒を酌み交わす「愛と平和」の記念碑を宮古島に送りました。同様の記念碑は、「牡丹社事件記念公園」にも置かれています。(写真)

台湾といえば、現在、日本では「台湾有事」を口実とした軍拡路線が進められています。「中国が台湾統一に向けて軍事力を行使した時、日本もそれに巻き込まれるかもしれない。それに日米軍事同盟で備えよう」というものです。しかし、もともと台湾は中国の一部であり、「一つの中国」は国際的な原則です。また、現在の台湾の政権も人民も独立など望んでおらず、中国が台湾に武力行使をする理由はありません。にもかかわらず、日米が戦争を煽り、軍拡の口実になっているのが「台湾有事」なのです。

今本当に求められる外交は、こうした軍事対立を生むものではなく、対話と協調の路線です。日本政府には、牡丹社事件を巡る「日台和解」の事例に学び、戦前の過ちを繰り返さない姿勢が求められます。

報告：森本琢磨(常任理事)

次世代に戦争の記憶を繋ぐ・・・高知空襲の語り部 岡村正弘館長

常任理事 松村信博

6月7日高知市朝倉小学校、6月15日東洋町甲浦小学校、7月3日高知市秦小学校・・・今年も草の家の岡村正弘館長が語り部として戦争体験を語り継ぐ平和出前講座が始まりました。高知市内を中心に県内各地に出かけます。8月で訪問先は10ヶ所を超えました。

今年87歳になる岡村館長は昭和20年7月4日の高知空襲でお母さんと妹さんを亡くしました。小学校2年の時です。防空壕から掘り出された母と2歳になる妹の遺体を見た時、心臓をギュッとつかまれるような激しいショックを受けたといいます。それ以来50年の間、館長は高知空襲の出来事を人前で語る事ができませんでした。

彼が高知空襲について語り始めるきっかけとなったのは、定年退職後、草の家の語り部の一人として参加した戦争体験を伝える活動です。当時、活動していた語り部は30人ほど。その語り部も年ごとに減り、今では直接戦時中の体験を語り伝えることのできる方は本当に少なくなっていました。一緒に活動してきた仲間の想いもあわせて伝えようと、岡村館長は活動を続けています。



最初は高知空襲の体験を語って伝えるスタイルでしたが、高知生協の皆さんの協力で作った紙芝居「ぼくのみた高知大空襲」を使うようになり、それ以来、奥さんの花子さんと一緒に2人3脚で小学校を訪ねています。

語り部の活動をはじめた頃、お母さんたちの遺体が掘り出されたところに差しかかると、言葉に詰まって話を続けられなくなることもあったそうです。聞いている子どもたちも涙ぐみながら、その時間を共有しじっと待ちました。子どもたちにとっても忘れられない追体験です。

今は、鉄兜や銃剣、背のうや飯盒、防空頭巾、焼夷弾の模型など戦争のことを伝えるモノも持ち込み、高知空襲の体験とともに「戦争」について伝えます。中国やアジア諸国への侵略戦争だったという加害の側面についても子どもたちに話しています。中国での三光作戦や日本軍の侵略の実態について具体的に語ります。「他国との友好、平和な未来を築くためには、日本の加害について学び、向き合うことが大切。」信念を持って話し続けます。

岡村館長の語りはダイナミックな土佐弁です。その迫力と説得力はピカイチ。子どもたち、教員、保護者、その場にいる全員が引き込まれてしまいます。

コロナ禍で中断した年もありましたが、毎年15～20ヶ所前後の小学校で体験を伝え続けてきました。全校20～30人ほどの小規模校から600人以上の大規模校まで、25年間続けてきた出前講座の回数は400回を超えました。子どもたちは様々な感想を書いて送ってくれます。岡村館長は想いが詰まった感想に目を通し、子どもたちの着眼点の面白さ、感じた内容の多彩さに目をみはります。

「一人一人感じたところが全部違う！」

来年は戦後80年。私たち戦後生まれの世代が戦争体験を直接聴くのは、本当に貴重な経験、大切な時間です。

「2024ピースウェイブ in こうち」を振り返って

「ピースウェイブ in こうち」は、1979年の「高知空襲展」を契機にして始まりました。回を重ねる毎に参加企画が増え、96年から現在の名称となり、平和を願う高知の夏の行事としてすっかり定着しています。しかしながら近年、私たちの気持ちとは逆行する未曾有の軍備増強が異常な速さと規模で進みつつあります。戦争体験と反省の中から生まれた平和主義という戦後日本の価値観が大きく損なわれようとしている中での開催となりましたが、「戦争は許さない」という市民のみなさんの強い思いに支えられて成功させることができました。厚くお礼を申し上げます。

6月29日の「イラク戦争20年と日本国憲法」を皮切りに、7月28日の「平和七夕まつり」撤収までの一月間に12の多彩な企画が催され、高知に平和を誓う大きな波を作り出すことができました。

「平和七夕まつり」は、今年も京町アーケードに各地から寄せられた「折鶴」を吊るすことができました。吊り上げとともに恒例の「ピースウェイブスタートの集い」が行われ、岡崎清恵実行委員長の挨拶、高知センター合唱団のみなさんを中心に「平和の歌ごえ」をひびかせました。また7月28日には岡山からの「平和七夕まつり」見学ツアーもありました。

「戦争と平和を考える資料展」は今年で46回目を数えます。高知港、須崎港、宿毛湾港が軍事利用されかねない危険な状況にあることから、南西諸島で強行されている軍備拡大の実態を写真やパネルで示すとともに、軍事同盟が如何に戦争に直結していたのか戦前の教訓をも提示しました。

「平和映画祭」では「戦雲」を上映し、南西諸島で今まさに進行中の状況をリアルタイムで知ることができました。「戦雲」は7月7日以降も県下各地で上映会を継続しています。上映会を契機に実際に現地視察をしようと「沖縄・連帯ツアー」も計画されています。

「反核平和コンサート」は2019年以来5年ぶりの開催となり賑やかな舞台が帰ってきました。歌やダンス、日舞、太鼓など、ステージいっぱいに繰り広げ、開催を待ちわびていた観客のみなさんと例年にも増して一体となる盛り上がりを見せました。



鏡川河畔での「灯ろう流し」

行事名	日時・期間	場 所	主 催	入場者
イラク戦争20年と日本国憲法	6/29(土)	自由民権記念館	平和な未来を考える会	60人
第42回平和七夕まつり	6/30~7/28	京町商店街	平和資料館・草の家、京町商店街	29人
スタートの集い	6/30(日)	京町商店街	平和資料館・草の家	42人
第40回平和美術展	7/2~7/7	高知県立美術館	高知県美術会・高知県革新懇	400人
第46回戦争と平和を考える資料展	7/3~7/10	自由民権記念館	平和資料館・草の家	416人
第20回高知市平和祈念式追悼集会	7/4(木)	「高知市平和記念の碑」前	高知市	65人
2024 ピースアクション in こうち	7/6(土)	高知県立美術館ホール	高知県生活協同組合連合会	250人
平和映画祭「戦雲」	7/7(日)	自由民権記念館	「戦雲」高知市上映連絡会	185人
戦争遺跡・掩体見学会	7/13(土)	南国市前浜	掩体を文化財として守り育てる会	15人
灯ろう流し	7/19(金)	鏡川河畔みどりの広場	新日本婦人の会高知市支部	17人
第37回反核平和コンサート	7/21(日)	高知県民文化ホール	反核平和コンサート実行委員会	385人
高知市民劇場第369回例会 「風を打つ」	7/26・7/27	高知県民文化ホール	高知市民劇場	

草の家を訪ねて

大阪女学院大学 大学院 中村恵子

ご縁あって、7月の第46回戦争と平和を考える資料展と9月の槇村浩墓前祭に参加させていただきました。私自身、高知の平和運動について全く知らなかったのですが、今回、草の家の皆様にお会いしてたくさんのことを教えていただきました。

第46回ピースウェイブでは、1979年7月高知空襲展以来、これまでずっとこの催しを続けてこられたことに感銘を受けました。展示、映画、コンサート、七夕飾り…市内に広がる「平和の文化」。何気なく眺めている景色は、草の家の活動がなければなかったものだと思うと、その丁寧で地道な活動に頭の下がる思いでした。

自由民権会館の展示では、今沖縄だけでなく高知の港も、自衛隊、米軍の軍事利用のために着々と工事がすすめられていることに驚きました。高知に来て初めて「郷土があぶない」の意味を理解しました。じわじわ戦争の足音が近づいていることが不気味でなりません。大阪でもぜひ知らせていきたいと思います。

そして9月3日の槇村浩墓前祭。一度目の訪問で、槇村浩さんのことを初めて教えていただきました。石しかなかった槇村浩さんのお墓を、後世の私たちが忘れないようにと、きちんとしたお墓（隣



に母親の丑恵さんのお墓も一緒に)を建てられた草の家の活動に、温かさを感じるとともに、あらためて大きな意義を感じました。26歳という若さで無念の死を遂げ、最期まで不転向を貫いた槇村浩さん。墓前に手を合わせながら、命がけて侵略戦争に反対した槇村浩さんのことを想うと、背筋が伸びる思いでした。また、わざわざ出勤前に墓前祭に来られ、汗をいっぱいかきながらお墓掃除をされる小学校の先生もいらっやっやっ、草の家の活動が次世代に継承されていることにも感動しました。(掃除のお手伝いをする筆者・右端)

最後に、草の家への2回の訪問で私が一番印象に残ったのは、岡村正弘館長が子どものときに過ぎた実家跡の空き地の風景です。岡村館長は、小さい頃の思い出がいっぱいあったその場所へ私を連れて行ってくださいました。家族との温かい会話、いつも遊んだ岩の坂道、近所のおばちゃんとの交流、そして1945年7月4日空襲での悲しい別れ、7歳だった自分がまるでそこにいるかのように、ぽつりぽつりと話してくださいました。岡村館長が見ている景色と、私が見ている景色は、同じなのに全然違うんだらうなと思いました。岡村館長にとって忘れられないこの風景を、私もしっかり心に残しておきたいと思います。

草の家の皆様の温かさで力強いエネルギーをいっぱい浴びて、心いっぱいの高知訪問でした。美味しいお料理、皆様の明るい笑顔に囲まれてあっという間に時間が過ぎていきました。温かく迎えてくださった草の家のすべての皆様に心から感謝しています。私自身も、日本を再び戦争をする国にしないために共に努力を続けていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

しんぶん落穂拾い

小学4・6年生に軍事訓練

草の家研究員 馴田正満

戦前の新聞を整理していると驚くような記事に出くわす。その一つが国民学校の4・6年生に朝倉の聯隊に入営させての訓練である。農作業などの勤労働員は日常的だったが、まさかここまでしていたとは……。以下、その記事を紹介する。読みやすくするため句読点を補い、随時改行し、漢字を新字体に改めた。引用は高知新聞の1943（昭和18）年8月5日付朝刊からである。写真1枚が添えられている。

見出しは「全国初の『豆兵隊』、営内訓練／市第四校児童がきのふから」。本文は次の通り。

国民学校児童が兵営に宿泊し兵隊さんと共に寝起きする本格的な決戦児童の夏季攻勢が展開された。これは市第四国民学校児童四、六年の男子百二十六名で四日午前九時三十分山崎徳一、山田敏夫、川添軍治、橋本宗七の各先生に引率された児童たちは初めて味ふ厳しい軍隊生活の想像に胸ふくらませて颯爽営門を潜った。

先ず本部前に集合すると早くもそこには百田部隊長代理のニコニコ顔や髯の山中中尉や下士官達が待ち受け「よう皆さんよく来ましたね」と心から親切に出迎へられ、その優しさに児童達のこはばつた最初の顔は次第にほぐれて「兵隊さんは強くて親切である」とその頼もしさに小さい胸は早くも感激で一杯。

早速山中中尉の指揮で営内忠魂社に参拝、中にはお父さんが、兄さんがこの御社に……と胸つまらせる姿もあり「仇は必ず僕が討ちます」と心から冥福を祈り礼拝がすむと百田部隊長（代理）から色々の訓話を聴かされ部隊のあらましが分かったと直ちに部隊に配属を終り愈々一泊二日間「豆兵隊」となつて本格的な猛訓練に移った。

その盛沢山の行事の第一日は、内務規定の説明、自己携帯品の整頓、軍事講話、作業、演習、炊事等兵隊さんの生活そのまま六時入浴、夕食、夜の学科、点呼等を終つてその夜は寝なれぬベッドでグツスリ寝込んだ。なお児童の入営訓練は全国最初の試みである。

女兒は見学慰問 市第四国民学校児童四、六年女子百十五名は四日午前九時、宿泊訓練の同校男子児童と共に小田、見元両先生に引率されて西部第三十四部隊の営門をくぐり午前中営内を見学、午後は一時から高知陸軍病院に白衣の勇士を慰問した。

市第四国民学校は現在の高知市立第四小学校（高知市上町2丁目）である。高知陸軍病院は聯隊敷地の南西にあり、現在の独立行政法人国立病院機構高知病院（高知市朝倉西町）である。写真は兵隊の指導で野砲の操作訓練をする様子とそれを見学する児童達。



草の家の貴重な資料を多くの方の方に

平和資料館草の家は「資料や写真パネル、視聴覚資料等の貸出をおこなっていますがご存じでしょうか。「活動の4本柱」としている「加害」・「被害」・「抵抗」・「創造」のテーマごとに多くの資料があります。今年の7～8月だけでも小高坂小学校やこうち生協、キリスト教団高知教会など6団体の要請に応じて貸し出しを行いました。

「資料の貸し出しは原則として会員に限ります」としていますが、ご遠慮なく草の家までご連絡ください。



編集部の不手際にて、原稿内容が間違っていました。お詫びして訂正させていただきます。



前号(163号)でご紹介した、新しい役員の挨拶

吉成承三

この度、常任理事を務めさせていただくことになりました吉成と申します。

今まで遺跡の記録保存を目的とした調査を専門に続けてきましたが、還暦退職後も同じ職場で仕事を続けております。

微力ですが、何かのお役に立てればと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

2024年6月15日以降の動き

- 06/15(土) 東洋町・甲浦小学校(生徒約40人+保護者など約100人)岡村館長・松村
- 06/17(月) 山本明夫さん(元NHK記者)来館「アーカイブスCD」ダンボール2箱寄贈
- 06/18(火) 憲法アクション呼びかけ人会議(担当:岡村和)
- 06/19(水) 憲法アクション・19行動
- 06/19(水) 高知市職員労働組合・保育分会講演(ちより街テラス23名岡村館長他)
- 06/21(金) 「8・15戦争を語りつぐつどい」実行委員会(県教組会議室)
- 06/22(土) 春野母親大会(岡村副館長)
- 06/25(火) 「戦雲」高知市上映実行委員会(18:00～草の家)
- 06/27(木) 草の家・第1回常任理事会(15:30～草の家)
- 06/27(木) 高知市・小高坂小「空襲資料展示」貸出(7/1～5迄展示)
- 06/29(土) 「イラク戦争20年と日本国憲法」講演会(2024ピースウェイブスタート)
- 06/30(日) 「折鶴」吊り上げ作業17:00～29東学校7校)
- 06/30(日) 「平和七夕」スタートの集い(17:40～岡崎清恵実行委員長挨拶40名)
- 07/01(月) 高知市小高坂小学校・高知空襲資料の展示
(～5迄、全校350名)
- 07/02(火) 第40回高知平和美術展
(～7迄、県立美術館 述400名)
- 07/03(水) 高知市・秦小学校「平和学習」語り部
(全校約670名 岡村館長)
- 07/03(水) 第46回戦争と平和を考える資料展スタート
- 07/04(木) 第20回高知市平和祈念式追悼集会(写真・右)
(「高知市平和祈念の碑」前65名)
- 07/05(金) 高知市・はりまや橋小学校「平和学習」語り部(全校約420名、岡村館長)
- 07/06(土) 2024ピースアクション(県立美術館・能楽堂250名)
- 07/07(日) 平和映画祭「戦雲」上映会(自由民権記念館、3回上映185名)



- 07/08(月) 生活と平和を守る高知市民の会・定例会 (担当：出原事務局長)
- 07/10(水) 高知市・三里小学校「平和学習」(全校約130名、岡村館長)
- 07/11(木) 高知市・江ノ口小学校「平和学習」語り部 (1～3年生約80名、岡村館長)
- 07/11(木) 高知市・江ノ口小学校「平和学習」講演 (4～6年生約80名、出原事務局長)
- 07/12(金) 朝倉忠霊塔納骨堂調査
- 07/13(土) 戦争遺跡掩体見学会 (南国市前浜防災コミュニティセンター、15名)
- 07/14(日) 第64回いはいま母親大会・講演 (岡村副館長)
- 07/15(月) 民主青年同盟高知県委員会「731部隊と日本の戦後」講演 (岡村副館長 14名)
- 07/19(金) 灯ろう流し (鏡川河川みどりの広場、参加17名)
- 07/19(金) 憲法アクション・19行動
- 07/20(土) 「特定利用港湾について」須崎市での学習会 (岡村副館長)
- 07/21(日) 第37回反核平和コンサート (写真・右)
(高知県民文化ホール、参加385名)
- 07/24(水) 憲法アクション呼びかけ人会議 (担当：岡村和)
- 07/24(水) 「戦雲」高知市上映実行委員会 (草の家)
- 07/24(水) 「戦雲」高知県上映実行委員会 (草の家)
- 07/25(木) 草の家・第2回常任理事会
- 07/27(土) 一宮児童館・語り部 (岡村館長20名)
- 07/28(日) 「平和の波おかやま2024」が「平和七夕のルーツを探る旅」17名
- 07/28(日) 第42回平和七夕まつり・撤収 (京町商店街)
- 07/30(火) 日本キリスト教団土佐教会・空襲 (展示7/30～8/18) 資料貸出
- 08/01(木) 日本共産党高知県議団「特定利用港湾」についての学習 (岡村副館長)
- 08/03(土) 「高知市平和の日」記念事業・平和祈念講演会 (オーテピア・岡村館長26名) (写真・右)
- 08/04(日) 香川県母親大会 (岡村副館長)
- 08/06(火) 中土佐町立大野見小学校「平和学習」 (岡村副館長27名)
- 08/06(火) 原水爆禁止2024年世界大会・広島集会
- 08/08(木) 草の家SNS等作業チーム (森本・馴田・岡村和)
- 08/09(金) 原水爆禁止2024年世界大会・長崎集会
- 08/10(土) 「香長平野の戦争遺産展」記念講演 (出原事務局長・35名)
- 08/15(木) 「8・15戦争を語りつぐつどい」(高知県人権啓発センター松村・123名)
- 08/16(金) 第27回戦争遺跡保存全国シンポジウム北九州やはた大会 (~19 迄出原)
- 08/19(月) 憲法アクション19行動「特定利用港湾指定撤回集会」(県民文化ホール60名)
- 08/22(木) 「生活と平和を守る高知市民の会」
高知市長・教育長と懇談 (市役所・出原)
- 08/23(金) 法政大学教授他2名「高知県下における朝鮮人労働と強制連行」(馴田) (写真・右)
- 08/24(土) 「ぶらっとまち歩き」
(09:00～馴田常任理事 参加者2名)
- 08/28(水) 高知県立大学・地域連携課「高知の戦争遺跡と戦争博物館をめぐり戦争の記憶の継承について考える」高知大空襲の語り部 (岡村館長18名)



「草の家」が発信する SNS

ご利用の SNS がありましたら、さまざまな
予定や報告などを発信していますので QR
コードを読み取り、ご利用ください。

フェイスブック



インスタグラム



X



ライブドアブログ



劇団 the.創 「私たちのねがい」

演出・脚本 西森 良子

「楽しませる演劇、娯楽的な演劇を発信していくのは楽しいけれど、たとえ重いテーマでも伝えなければならぬものを発信していくのも又、演劇人としての役目だ」と、尊敬する仲代達也さんの言葉をいつも胸にだいています。

私たちが今取り組んでいる演劇「ビキニの海からの証」はまさに、「伝えたい」「伝えなければならぬ」演劇です。

ビキニ事件を芝居に一という話をもらってから4年以上の月日がたちました。始めは「とんでもない。無理だ」と後ずさりしたけれど、「高知が抱えているもの、高知でこの事件を発信していく事の意味。たくさんの人たちの力で積み上げてきた真実の実績。紙芝居にしたい、絵本にしたい、その思い。そして被爆で苦しんできた人たちの声に耳を心を傾けてきた思い。その一本の線上を私たちも一緒に歩こうと決意」した出発でした。

でも本音をいえば私たち劇団が持っている、いえ、私自身の力量をこえるテーマであり、時折くじけそうになるのですが、なぜかまわりの人はあたたかく、励ましの言葉と力を貸してくれるのです。

今、舞台稽古が始まりました。脚本のセリフが役者たちによって舞台という空間に立ち上がり、幡多ゼミ役の子ども達の元気な声が稽古場に響き始めました。前に前にすすむしかありません。

ビキニ事件はまだ終わっていない……例えば1シーンなのですが、福竜丸事件の数ヶ月後、政府は俊鵜丸を実験の海に調査に行かせました。科学者や記者団を乗せ、ほとんどの人たちは広い太平洋に水爆実験の後はないだろうと思っていたようです。ところが海や魚の汚染は予想以上で、関係者を驚愕させまし



た。でもこの命がけの調査は闇の中に消えるのです。

魚を食べる国民にもそこで操業する船や乗組員たちに告知することもなく、この調査は誰のために何のための調査だったのか。

一発の核兵器もこの地球に落とされることは許されない。なのになぜその核を争って実験までして造らなければならないのか。その実験によって命が脅かされ、人生を狂わされたことは一体どうなるか。

私たちはこのビキニ事件、いえ核によって生きなければならなかった命の証、そしてそれに立ち向かう演劇をつくりたいと総力をあげて取り組んでいます。

「慟哭の海から非核の海へ」協力をお貸しください。